

富 盛の石彫大獅子（沖縄県有形民俗文化財）



ヒーゲーシ（火返し）として、1689年に置かれたものです。『球陽』に、「その昔、火事の多かった富盛村が久米村の風水師に相談したところ、ヒーザン（火山）である八重瀬嶽（岳）に向かって獅子をたてよ。と助言され、石獅子を置いたところ、火事はおさまった。」という記述が残っています。この石獅子は村を守る村落獅子として県内で一番古く、一番大きい石獅子です。使用されている石材は粟石（牧港石灰岩）です。

小 城のニーセー（青年）石



青年を栄えさせるための守り神として石獅子を置き、拝むようになると小城の男達は栄えるようになった。と伝えられています。以前は、陸上競技大会などの青年行事があるときなどにも拝まれていました。石獅子は、村の東側の高い山（くわーきぶく）に与座岳・南山グスクあたりに向かって置かれています。



宜 次の石獅子



子ヌ方のシーシ



卯ヌ方のシーシ



午ヌ方のシーシ



酉ヌ方のシーシ

もともとあった子ヌ方のシーシと卯ヌ方のシーシと壊れた後、代わりに置かれた午ヌ方のシーシと酉ヌ方のシーシの4体が集落の四隅に置かれています。そのうち2体（子ヌ方・卯ヌ方）は運玉森へ向かっています。宜次は周囲を小高い丘に囲まれ、ヒーザン（火山）の八重瀬嶽（岳）が見えないため運玉森の方をより恐れていたと考えられています。



具 志頭の石獅子



具志頭の石獅子



集落の北側の丘にもともとあった大きな石（根石）に彫刻が施されています。根石に彫刻を施して作られたのは、この獅子しか確認されていません。